

諸 先 生 御 選

現代俳句協会副会長 倉橋羊村選

◎思ひつき聞かすひとぬ夜の秋	佐渡谷秀一
度忘れのふえて苦案や夕端居	平井 与史
濡れし手をズボンで拭く子晩夏光	佐渡谷秀一
老鷹の遠音も馳走森の宿	藤本 友子
交番はいつも空つぼ花葵	小川名みさ
もてなしは風吹き抜ける夏座敷	稲葉 幸
朝蟬は今日ある証と鳴きやまず	秋山 佳史
細腰のコスモスなれど風に耐へ	安中 忠夫

圓圭幸 石河義介選

◎長生きは罪なのですか秋蛍	増田 守
大花火月に当たりて砕け散る	小川名みさ
がに股に鴉の歩く大暑かな	野上 貞勝
終戦日一人の箸を置きにけり	増田 守
夕立あと金満らす金閣寺	野上 貞勝
ペデイキニアの紅輝けり夏 <small>なつ</small> の海	岩野ヤエ子
建て替へて又も馴染みの守宮 <small>まもりみや</small> かな	平井 与史
師の声のもう一息 <small>ひとき</small> に硯洗 <small>すずり</small> う	安沢 文枝

あかぎ主宰 飯村寿美子選

◎母つひに夢見始めし盆の月	増田 守
大花火月に当たりて砕け散る	小川名みさ
がに股に鴉の歩く大暑かな	野上 貞勝
肩骨の鳴るや老残夏の朝	秋山 佳史
将棋の歩一手の負けに団扇風	稲葉 幸
長生きは罪なのですか秋蛍	増田 守
魚拓 <small>うしな</small> みな受け 口ひらき日の盛	野上 貞勝
墨文字へ汗のひとつぶしみけり	藤本 友子

古志 小寺敬子選

◎棚経の僧入り来て風ゆらく	安沢 文枝
終戦日一人の箸を置きにけり	増田 守
濡れし手をズボンで拭く子晩夏光	佐渡谷秀一
老鷹の遠音も馳走森の宿	藤本 友子
長生きは罪なのですか秋蛍	増田 守
交番はいつも空つぼ花葵	小川名みさ
東北のトマト旨しや昼の膳	岩野ヤエ子
もてなしは風吹き抜ける夏座敷	稲葉 幸

饗宴 北 登 猛選

◎終戦日一人の箸を置きにけり	増田 守
大花火月に当たりて砕け散る	小川名みさ
濡れし手をズボンで拭く子晩夏光	佐渡谷秀一
老鷹の遠音も馳走森の宿	藤本 友子
怪談の佳境に入りぬ夏座敷	藤本 友子
柳 <small>やなぎ</small> 立 <small>たて</small> の太陽の味ミニトマト	安中 忠夫
墨文字へ汗のひとつぶしみけり	藤本 友子
細腰のコスモスなれど風に耐へ	安中 忠夫

末黒野圭幸 小川玉泉選

◎夕立あと金満らす金閣寺	野上 貞勝
がに股に鴉の歩く大暑かな	野上 貞勝
濡れし手をズボンで拭く子晩夏光	佐渡谷秀一
将棋の歩一手の負けに団扇風	稲葉 幸
老鷹の遠音も馳走森の宿	藤本 友子
交番はいつも空つぼ花葵	小川名みさ
終戦日一人の箸を置きにけり	増田 守
ペデイキニアの紅輝けり夏 <small>なつ</small> の海	岩野ヤエ子

頂点 鶴巻ちしろ選

◎終戦日一人の箸を置きにけり	増田 守
母つひに夢見始めし盆の月	増田 守
梅干し <small>うめぼし</small> のころころ笑むこと並びをり	岩野ヤエ子
長生きは罪なのですか秋蛍	増田 守
腋芽摘む指先トマトの香にじむ	桜井 幸枝
草引くや元二等兵の軍歌かな	稲葉 幸
墨文字へ汗のひとつぶしみけり	藤本 友子
「まだある？」と子供にかまれラムネ売り	青木美紀子